

各種殺虫剤のモンシロチョウ幼虫に対する殺虫力と
キャベツほ場における防除効果

佐々木善隆

モンシロチョウ幼虫の各種殺虫剤に対する感受性を検討し、一部の殺虫剤については残効性、防除効果についても検討した。

4令幼虫に対して回転式散布塔を用いて薬液を散布した結果、phosphate型の dichlorvos, naled, dimethylvinphos と chlorfenvinphos, phosphorothioate 型の pyrimiphos methyl, cyanophos, chlorpyrifos methyl, diazinon と isoxation 及び還状リン酸エステル of salithion の殺虫力が著しく高かった。

非有機リン剤では pyrethrins と pyrethroid 剤の fenvalerate の殺虫力が高かったが endsulfan とカーバメート剤のそれは低かった

fenvalerate に piperonyl butoxide を 1:1 の割合で加えると LD₅₀ は fenvalerate の量で約 3分の1 に減少したが、それ以上 p.b. の量を増しても LD₅₀ は減少しなかった。

dichlorvos の 5令幼虫に対する LC₅₀ は 1令幼虫に対するその 8.3 倍であった。

カリフラワーに散布した dimethylvinphos, pyrimiphos methyl と isoxation の 1令幼虫に対する効果は 7日後でも 90%以上の死虫率を示した。しかし dichlorvos と salithion の残効は極めて短かかった。

キャベツほ場での防除効果は dimethylvinphos, isoxation, cyanophenphos, diazifos, primiphos methyl, prothiophos, fenvalerate で高かったが phenthoate と endsulfan の効果は低かった。